プロジェクト共同研究組織中間報告（1997年度）

アジア経済圏の可能性

The Capability of Asian Economic Sphare

総括研究員：板東　慧
分担研究員：埋橋孝文　今野修平　盧　　群

本プロジェクトは、通貨統合を具体化して一段と深化するＥＵと北米の統合を基礎に、さらに中南米への拡大をめざすＮＡＦＴＡに続いて、最も共同市場化の可能性の強いＡＳＥＡＮとさらにその東アジアとの共同など、21世紀におけるアジア経済圏の可能性を、研究員それぞれの分野から検討しようとするものである。

いうまでもなく、キリスト教文化とライフスタイルの共通性が強い欧州と、経済格差は大きいが同じくキリスト教文化の共通性をもち、しかもＵＳＡという圧倒的優位の経済力を基盤にしてすでに市場的には事実上の統合性を強めている北米と比べて、アジアは広域であり、かつ宗教的にも文化的にも多様なアジア市場の統合は容易ではない。しかし、アメリカもＥＵもロシアもアジアとの経済関係の緊密化を積極的に求めており、すでにアジア太平洋を単位にしたＡＰＥＣも存在する。

ところが、昨年夏のバーツ危機以来、アジアの経済不安が拡大している。これは、高成長の継続後に起こる調整過程の一種と見られるが、日本を筆頭に東アジア全体を含めて、バブル崩壊による経済の脆弱化は、今後の積極的な国内体制整備とリストラ、さらにアジア地域における国際経済システムの機能再編成などが求められているといえる。この趣旨にもとづいて、初年度はそれぞれの構成員が以下のような研究活動をすすめた。

・板東　慧

「ＡＳＥＡＮ金融危機とアジア経済の今後と課題」をテーマとして、①ＡＳＥＡＮ金融危機のアジアへの波及実態　②冷戦体制崩壊後のアジア経済構造の再編成動向　③広域アジア領域内の相互関係　④アジア各国の経済発展と国民生活・治安の相関関係にもとづく政治的安定性　⑤アジア各国における相互経済協定の可能性　などの視点から、中国－北京・上海など巨大都市の経済成長と安定度・東北地方の経済発展・北朝鮮との国境地帯の経済情況の実地調査研究、シリア・ヨルダン・イラン・タイ・カンボジア各国社会経済の実地調査による研究をすすめた。

・埋橋　孝文

「東アジア・東南アジアにおける社会保障制度の形成」をテーマとして、近年、年金保険や医療保険の適用拡大や新制度の導入をすすめている東南アジア諸国での実地調査を含め、①社会保障制度体系の相互比較　②制度導入の背景と目的・影響③日本の60年代初頭

における「国民皆保険化」との比較、などの研究をすすめた。

・今野　修平

「アジアにおける経済発展の基盤と巨大都市の役割と課題の研究」をテーマとして、中国で国家計画委員会幹部からのヒアリング、長春・東北師範大学での「新大陸橋国際シンポジウム」（中国東北からユーラシア大陸に向かう基幹交通路建設プロジェクト）に参加して報告を行い、さらに国連が指導する中・朝・ロ国境地帯開発の国際プロジェクトあるトマン地域を視察し、東北アジアの経済発展と巨大都市をめぐる研究をすすめた。

・盧　　群

「人民元為替ルートの変遷とその影響」をテーマとして、アジア通貨危機の中で、唯一安定性を保つ人民元為替レートの歴史・その背景・中国経済への影響・アジア経済への影響・今後の可能性などについて研究をすすめ、中国・米国・東南アジア等の実地調査と資料収集を行った。